



# おのみ



令和4年度 5月号  
志布志市立尾野見小学校

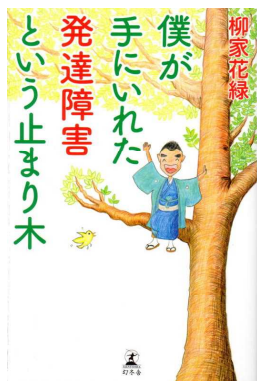
## 思いやり花と緑の尾野見小さん江

校長 宗岡 克英

先日、鹿児島市で落語家の柳家花緑（やなぎやかろく）さんの落語会がありました。花緑さんは、NHK教育テレビの『にほんごであそぼ』で落語の「寿限無」を紹介し、大ブームをおこした方です。尾野見小のキャッチフレーズは「思いやり花と緑の尾野見小」です。何かしらの縁を感じましたので、その落語会に行くことにしました。落語では、本題に入る前に「まくら」と呼ばれる導入の話があります。そのまくらの中で、花緑さんは自身の障害について話してくれました。

花緑さんは、読むことや書くことがとても苦手だそうです。それは識字障害という学習障害の一つであり、8年前にわかったそうです。書かれた文字を脳が認識して言葉として理解するのに時間がかかり、読むことや書くことに多くの意識やエネルギーを使うそうです。言葉を操る落語家として活躍している花緑さんが、実は読み書きが苦手だということを知りとても驚きました。

花緑さんは、その障害を自分の特性ととらえ、受け入れることによって精神的にすごく楽になったそうです。それまでできないと思っていたことが自分のこの特性のためだとわかり、仕事の合間に適度に休憩を入れたりするなど意識的に自分のペースを作ることによって、仕事がうまくいくようになったそうです。



落語が終わった後、花緑さんのことについてもっと詳しく知りたかったので、ロビーで販売していた『僕が手に入れた発達障害という止まり木』という花緑さんが書いた本を購入することにしました。積まれた本の後ろに座っていた花緑さんが「サインをしましょうか」と声をかけてくれました。私は、自分が勤務する小学校のキャッチフレーズが「思いやり花と緑の尾野見小」で、花緑という文字が入っていることを伝え、このキャッチフレーズをサインの中に入れて下さいとお願いしました。花緑さんはとても喜んでマジックを握りました。サインを書くのにとっても時間がかかりました。特に「尾野見小」と書く時には時間がかかりました。尾っぽの「尾」と言ってもなかなか伝わらず、私は実際に漢字を書いて示しました。花緑さんは、「ね。時間がかかるでしょう」と笑いながら書いてくれました。サインを書くことはとても苦手だそうです。でもだからこうやって時間がかかっても字を書くことを自分に課しているそうです。

自分の特性に合った生活スタイルを築きながらも、自分の苦手なことを克服しようと努力する姿を見てとても感動しました。そして、「人間は一人ひとり性格も個性も違うからこそ、世の中面白いし、豊かになるんですよね」という花緑さんの言葉が私の心に響きました。

